

当院の取り組みが 茨城新聞で紹介されました

小児在宅ケア知識共有

県立医療大 看護師ら向け研修会
付属病院



研修会で岩崎信明病院長の講演を聴く参加者＝阿見町阿見の県立医療大付属病院

看護師やリハビリ職を対象にした小児在宅ケアの研修会が、県立医療大付属病院（阿見町阿見）で11月30日に始まった。小児科の医師らが講演し、小児在宅医療を取り巻く課題や子ども特有の症例などを説明。約100人が参加し、障害や

看護師やリハビリ職を対象にした小児在宅ケアの研修会が、県立医療大付属病院（阿見町阿見）で11月30日に始まった。小児科の医師らが講演し、小児在宅医療を取り巻く課題や子ども特有の症例などを説明。約100人が参加し、障害や

医療的ケアのある子どもの在宅ケアについて知識を深めた。研修は、在宅ケア従事者に小児の対応にも積極的に取り組んでもらえるよう知識習得を促す狙い。訪問看護ステーションなどで働く看護師や機能訓練指導員を

対象とした。

第1回目のこの日は、同院の岩崎信明病院長らが講演。岩崎院長は、在宅ケアを利用することの多い、重度の心身障害と知的障害のある「重症心身障害児」について説明。たん吸引や経管栄養などの医療的ケアを必要とすることが多いことなどを紹介した。

参加者に対して「訪問看護では高齢者を診ることが多いと思うが、子どもの在宅ケアの問題が取り残されている。支援してもらえればうれしい」と呼び掛けた。研修会は全5回開催。同院の医師や看護師、機能訓練指導員などが講演を行う。次回は21日に開催予定で、気管切開や人工呼吸器の装着など医療的ケアについて講演する。（成田愛）

研修は、在宅ケア従事者に小児の対応にも積極的に取り組んでもらえるよう知識習得を促す狙い。訪問看護ステーションなどで働く看護師や機能訓練指導員を